

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372400261		
法人名	株式会社 邑久幸ホーム		
事業所名	グループホーム 邑久幸ホーム		
所在地	岡山県瀬戸内市邑久町尾張94-1		
自己評価作成日	平成27年10月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.in/33/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JivovsvoCd=3390700080-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-612-2号室		
訪問調査日	平成27年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・運営理念である「入居者が主人公」を目指して、入居者の方が意思や感情をありのままに表現できる、安心感のある雰囲気作りと、笑顔で接することを心掛けています。
 ・入居者の方が、その人らしく、持っている力を発揮しながら生活して頂けるような支援を行っています。
 ・ホームの中にも、季節の移り変わりを感じる事が出来るよう、菜園で季節の野菜や花を育てています。また、入居者のご家族からも、新鮮な野菜や季節の花を届けていただきますので、食事に提供したり、花を飾ったりしています。
 ・季節感のある行事を行ったり、日常の会話の中でも昔のことを思い出していただけるような一時を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

割烹着をまとい慣れた手つきで包丁を握る人、盛り付けをする人、食器を洗う人、洗濯物を畳む人など、多くの利用者が積極的に家事に関わり、自分の役割を持って生き生きと暮らす、元気な様子が目立った。日差しが降り注ぐリビングは、窓を開け、風通しが良く、花や緑が飾られ、和める空間になっている。職員は利用者の傍らに腰掛け、共に笑顔で話をしている。食事前の体操も楽しそうに取り組んでいる。壁には利用者と一緒に作った秋刀魚の絵などが飾られ、賑やかさもある。手芸などの趣味活動にこそむ人は、自分の部屋でも作品づくりに取り組んでいた。庭には菜園があり、季節の野菜や芋を栽培し、収穫を楽しめる。長期間、入居当時の心身状態を維持している人が多く、中には向上した人もいる。毎週の職員会議では各人の状態や日々のケアを積極的に話し合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営会議、スタッフミーティングや新人研修などを活用して、全スタッフにホームの運営理念や地域密着型サービスについてのあり方を共有しています。	生き生きとした表情の利用者が多く、リビング等に掲示している理念「入居者が主人公」が浸透している。理念を意識した月間目標を職員自らが決め、月末に反省会をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のボランティアの方や中高生のボランティア活動を積極的に受け入れています。また、入居者の方と近所のスーパーへ買い物に行ったり、イベントに参加したりなど地域の人々との交流をもつようになっています。	希望する利用者と一緒に、菊花展やお雛様、コンサート等の地域行事や、近くのスーパーなどに出かけている。月1回程、地元のボランティアがハーモニカ演奏に来ている。中高生の職場体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との認知症の相談、介護保険に関する質問等を随時受けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催をして運営推進会議委員の皆さんにホームの活動や、入居状況等をお知らせし、委員の皆さんから質問、要望、助言などをしていただき、ホームのサービス向上に活かしています。	運営推進会議で「職員の資質向上についてどうしているか？」との質問を受け、以降の会議では職員の受けた研修等を報告している。リビングで会議をするので、一緒に座って聞く利用者もいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者の方は、いつも丁寧な対応で連携が取り易く、また、運営推進会議も参加していただき、協力関係がうまく築けています。	市の介護相談員が2か月に1度来訪し、利用者の話を聞いている。年1回の介護相談員との意見交換会で、問題と感じた点の改善につなげている。市の担当者には不明点を電話で聞いて、回答を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロハンドブックを活用して、全スタッフは、意識して介護するよう心がけています。また、身体拘束がどうしても必要な方には、ご家族に同意をもらい、行政へも定期的に報告を行っています。	身体拘束は見受けられない。利用者はゆったりと穏やかに過ごしている。毎年、身体拘束等に関する外部研修会に参加した職員が、その内容を全職員に報告している。ユニットの出入口は常に電子ロックされ、その是非は検討されていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフは、入居者の方への関わりや声かけの仕方をしっかり学び、入居者の方の尊厳、人権、自由が保障される介護を目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修等で学ぶ機会には積極的に参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約等に関しては、担当者がご本人、ご家族と面談し書面と口頭で説明しています。また法改正等があれば、ご家族に書面にて説明をさせていただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方が面会に来られたときには、スタッフから積極的に話し掛けを行い、相談しやすい雰囲気作りをしています。	利用者ごとに写真と文章で様子を知らせる「月見草だより」を家族に毎月送っている。家族からは来訪時や電話で意向や意見を聞いている。家族からの苦情に対しては、管理者と職員が詫言を入れ、二度と起こらぬように全職員に規則を徹底させた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、会社代表者と管理者による運営会議を開催し、意見や情報の交換等を行っています。また、代表者が職員と面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けています。	代表者は職員との個別面談を年2回、管理者との会議を月2回実施している。管理者自身で決済できる額を1万円から3万円に引き上げ、洗濯機の故障やカーテンの破れに、現場ですぐに対応できるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの資格取得に向けた支援を行い、資格が給料に反映する仕組みになっています。また、必要に応じて人事異動を行いスタッフの意識を向上させる働きかけを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しいスタッフには新人研修を行い、既存のスタッフには、その人その人にあった内容の研修を事業所内外で行っています。研修内容は、スタッフミーティング等で発表してもらうようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業者と情報交換を行い、親睦を深めています。また、全国組織の同業者ネットワークに加入し、新しい情報の収集や研修等に参加させてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に事前面接を行い、ご本人の現状や気持ちに耳を傾け、信頼関係を築けるようにしています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がご本人に対してどのような思いを抱いているのか、どんなことで不安になり困っているかなど、入居前に要望等を聞いています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面接でご本人と話をし現状や思いを聞き、必要としている支援を検討するようにしています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において出来ることや得意なことは、ご本人にも一緒に行ってもらえるように声かけをしています。スタッフも入居者の方から生活の知恵を教えてもらいながら、共に笑い楽しく一緒に生活をしています。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何時でも自由に面会でき、自室やリビングでゆっくり過ごしていただいています。ホームでの生活の様子を伝えたり、ご家族やご本人が望まれていることなどを尋ねています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブやご家族との外出などの機会に馴染みの場所(行きつけの美容室など)や人との関係が途切れないように努めています。	入居時より家族には積極的な支援を依頼しているため、本人の馴染みの理容店、買い物先や自宅へは家族が連れて行くことが多い。利用者の友人が来訪することもある。調査時にも近所の方が訪ねて来ていた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、座る席を決めています。また、入居者同士の関係が円滑に保たれるようスタッフが調整役となり入居者同士が上手く関わり合えるように支援しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所や病院へ移られた際に混乱することのないように必要な情報提供等を行い、入居者本意の支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中でご本人の希望や意向を汲み取るようにしています。また、難しい場合には、ご家族と相談してご本人にとって最善の方法や関わりができるようにしています。	掃除や食事の用意、後片付け等に利用者が積極的に参加していた。畑での草取りや種まきも利用者が率先して行っている。また、主治医からの意見に対し、本人や家族の希望を踏まえて、支援の方向性を決めている。	利用者の生活歴や、暮らしの中での意向を文書化していき、職員間で情報が共有できていない。記録を残し、職員間の情報の差が埋められるよう、期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からこれまでの生活を聞いたり、また、日々の関わりの中でさらに具体的な情報を得るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムや日常の過ごし方、その日その時の心身の状態に配慮して、ご本人の思いに沿った暮らしができるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または状態に変化があった時など必要時にはカンファレンスを開き、課題とケアのあり方について話し合っています。ご家族とは面会時に相談したり、希望を聞いて介護計画に反映するようにしています。	長期間、入居時と変わらない状態を保っている利用者が多い。カンファレンスや毎週の職員会議で利用者の状態や関わり方を話し合っている。基本的には3か月ごとにモニタリングをし、家族とも相談し、次の介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子を記入して、スタッフ間で情報が共有できるように申し送りをしています。週1回のミーティングと必要時にはカンファレンスを行いケアの見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の暮らしの中でリハビリを兼ねたレクリエーションや運動会など様々な活動を行ったり、買い物やドライブに出かけるなど一人ひとりのニーズに柔軟に対応できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の方は、近隣の店舗等買い物に行ったり、市政だよりを見て、地域の催し物にも参加しています。運営推進会議の中で、民生委員・老人クラブや行政の方より地域の色々な情報をいただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の方は、それぞれのかかりつけ医による診察を受けています。また、複数の医療機関とも連携をしています。	利用者、家族の希望により、かかりつけ医を決めている。協力医療機関であれば往診してくれるが、それ以外は、主に家族が受診に同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気づきで身体に変化がある時は、協力医療機関の看護師に状況を伝えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ必要な情報提供を行い、入院中の入居者の方には面会に行き、病院での生活や治療などの情報を得ています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の方には、入居前に重要事項説明書にて説明を行います。できるだけホームでの生活が継続してもらえるよう主治医と相談しながら支援しています。	看取りは行ってない。状態が急変した時の緊急搬送先は家族の希望を事前に聞いている。しかし、重度化した場合や終末期になった時の方針が明確でなく、利用者や家族との話し合いや取り決めができていない。	本人や家族の不安を解消するため、終末期や重度化した場合の事業所の対応方針を明確に文書化し、事前に話し合い、同意を得るよう、期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、ミーティングでは、急変時や事故発生時の対応についてを繰り返し話し合いを行っています。また、緊急時に適切な対応ができるようマニュアルを作成しユニットに配置しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署に協力をしてもらい避難訓練や消火訓練を行っています。また、入居者の方にも参加してもらうことで、より実践的な避難訓練を行っています。	最近では夜間想定避難訓練が続いているが、昼間に実施し、夜間帯には行ってない。消火器の場所の把握はできているが、緊急通報装置の使い方や2階の利用者の誘導方法は、全職員の熟知には至っていない。	新入職員が増えていることもあり、改めて災害時の避難方法を明確化し、昼夜を問わず利用者を避難させる方法を全職員が身につけられるよう、期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフが援助を行う際は、常に入居者の気持ちになった関わりができるように、個々の生活歴などを把握し、ミーティング等を利用してスタッフの意識統一を図っています。	職員は利用者に穏やかな口調で話しかけている。基本的には丁寧語を使っているが、利用者に応じて、方言も使っている。職員間で、気持ちを損ねない言葉かけはどのようにしたらよいかの話し合いを重ねている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物等に付き添う時など、ただ付き添うだけでなく必要な物が購入できるようアドバイスをしています。また、スーパーでは自分で欲しい物が選べるよう店内の案内をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出等の希望が入居者の方からあれば、出来る限り、すぐに対応しています。ホームの中でも入居者の方がしたい事は、なるべく尊重して対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で整容できない方にはスタッフが援助をしています。また、定期的に理容、美容の業者の方に訪問してもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話や食事摂取状況などから嗜好等を把握しています。また、入居者の方と一緒に食事作りや食器洗いなど片付けをしています。	献立は、刺身や天ぷらがほしいという利用者の希望を聞き、菜園で収穫した野菜や季節感等も考慮して決める。複数の利用者が下ごしらえ、盛り付け、下膳や食器洗いなどに積極的に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個々に把握しています。食事の摂取や水分の摂取が少ない方には、本人の嗜好に合わせた食事を摂取してもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方へは声かけ、見守りをしています。また、援助が必要な方へは、スタッフがお手伝いさせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の方の排泄リズムを把握しながら、本人の状況・状態に応じたトイレ誘導を行っています。	ひとりで排泄できる利用者が多い。「今、トイレが空いています」という具合に、利用者が自発的に行きやすくなる言葉をかけている。利用者ごとの日中の状況を、夕方に職員間で申し送りして、夜間に適切な対応ができるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を介護記録に残しています。また、繊維質の野菜、芋類を食卓に提供したり、便秘予防の体操をして便秘の予防を行っています。また、便秘がひどい場合は、主治医に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の方の好きな時間に入浴できるよう、入浴の時間帯は決めていません。また、意思表示の難しい方、入浴が嫌いな方には、入浴剤の使用など工夫をし、個々にそった支援を行っています。	更衣室、浴室共にとても清潔である。利用者一人ひとりのペースで入れるようにしているため、長湯の人もいれば、毎日入る人もいる。夕食後も入浴できる。希望者には足浴もする。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の関わりを大切にして、外気浴や散歩をしたりして気持ちよく眠れるような支援をしています。また、身体レベルに合わせた昼寝や休息ができるように配慮をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書の一覧表を個々のファイルや服薬ケースに保存して、入居者の方の薬についての理解を深めています。また、薬の変更等があった場合は、連絡ノートにてスタッフに知らせるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な調理や洗濯物たたみ等をしていただいています。各ユニットごとの交流やドライブ、散歩、買い物に行くことにより気分転換等の支援を行っています。また、個々の希望を取り入れた献立を作成しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩、買物は希望に沿って出かけています。また意思表示が出来にくい方や歩行が困難な方も声かけて無理のない外出にお誘いしています。	気候の良い時にはほぼ毎日散歩をしたり、近隣の店に車で出かけたりする。外に出るのが億劫な利用者には「畑を見よう」とテラスに誘い、外気浴ができるようにしている。家族がよく買い物や食事に連れ出してくれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方の金銭は金銭管理の同意を得てホームでお預かりしていますが、外出の際の買物では、ご本人にお金をお渡しして安心して買物が出来るよう配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望のある方には、子機をお渡しして、自室でかけていただいています。ダイヤルが出来ない方にはスタッフが援助しています。また、年賀状や手紙のやりとりができるように配慮をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が快適に過ごせるよう温度、湿度には特に注意しています。また入居者の方の歩行の妨げになる物や危険な物は共有の空間には置かないようにしています。花や掲示物を飾り、ホールにいても季節を感じることでできる空間を提供しています。	窓を開け、風通しを良くしている。整理整頓がなされ、すっきりしているが、花や緑が随所に置かれ和める。一緒に掃除をする利用者もいる。普段の会話で出てきた歌の歌詞や、秋刀魚などの季節間が出る飾りを利用者と共に作り、掲示している。庭には菜園があり、収穫などを楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳コーナーで仲の良い入居者同士がくつろげるスペースを設けてあります。玄関にも椅子を配置しており、天気の良い日には、入居者同士でひなたぼっこを楽しんでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が安心できる環境が作れるよう、自宅で使っていた椅子や寝具等、思い出の品を入居時に持ってきていただいています。また、本人が好むカレンダーや絵を掲示しています。	利用者の好きな家具や道具を持ち込んでいる。自分の作品を壁に飾りたい、自分の思うように部屋を使いたいという希望に沿えるような支援により、落ち着いて過ごせ、各人の特徴が表れた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を掲げ、トイレはわかりやすいよう入口に大きく「トイレ」と表示しています。また、安全への配慮から壁への張り紙等は画鋏等の使用を止めて危険のない物を使用しています。		